

## シベリア抑留を風化させるな

岐阜県 坂崎 博

昭和十九（一九四四）年九月、中部第二部隊に入隊。直ちに満州ハルビン技術教育隊第二六三部隊に入隊。三カ月の教育後、三江省チャムス野戦兵器廠へ転属する。

二十年八月十五日、ハルビンにて武装解除。十月、貨車に乗せられて出発、入ソ。

到着したところはイズベストコフヤ、山奥の収容所に入れられる。貨車を降りてから行軍が続ぎ、途中ぼろぼろの小屋で一泊し、また行軍が続く。何とかまじな収容所に着いたが食物もなく、配給もなく、このまま飢死するかと思った。作業は森林伐採と鉄道工事であった。モンカ、テルマ辺りを転々と移動した。

入ソ当時はまだ体力もあり一生懸命働いた。しかし、だんだんと日が経つにつれ体力の衰えがわかり、

これでは死んでしまふぞ、こんなところで死んでたまるか、どんな事があっても生きて日本へ帰って見せるぞとお互いに誓い、励まし合って頑張った。しかし残念なことに二十一年の夏だったと思いますが、集団チフスが発生し多くの犠牲者を出しました。その人達はどこへ、どのようにして埋められたかは分かりません。私達には一切知らされることなく、すべてやみの中であらされたようです。かわいそうなことをしました。

出来るものならその人達の御墓を見つけてやりたいと思いますが、私自身が不調で、とても墓参には行けそうもありません。

申し訳ないと思っております。せめて安らかに眠って下さいと祈るばかりです。幸いなことに私達はハラシヨウラポータとして、二十二年八月、早く帰ることが出来ました。現在は孫にも恵まれ幸福に暮らしております。ありがたいことと神様に感謝する毎日です。